

令和5年度
学校だより

あおなみ

R5.12.14 No.8
諫早市立小長井小学校
校長 白石 和幸

【人権週間・・・小長井小学校では】

12月10日は「世界人権デー」です。わが国では、この日を最終日とする1週間を「人権週間」として、人権啓発活動に力を入れています。小長井小学校でも、この時期(11月下旬～12月初旬)に「なかよし集会」「縦割り遊び」「縦割り掃除」(※縦割りとは、学年学級をばらし、6年生をリーダーとして、1年生から6年生でグループを編成することを意味します。)等々を実施しています。先週の4日(月)は、「人権トーク&ライブ」と題して、主に諫早を拠点として活動されているアコースティックバンドの「オフクロッツ」をお招きして、歌とお話を視聴しました。子供たちは、音楽は勿論のこと、曲と曲の合間に語られる、御自身の経験を交えたお話にも真剣に耳を傾け、興味深く話に聴き入っていました。

6日(水)は、私も「全校講話」で、6年生と実施した授業を題材として「差別をなくすためには・・・」→「みんなが、仲良くするためには・・・」というテーマで話をしました。6年生が授業の中で実際に提案してくれた意見を提示しながら、全校でテーマに沿って考えてもらいました。

例えば、「嫌なことは、嫌だと言う。」「自分の意見をしっかり伝える。」「一人一人の話を聞く。」「一人だけで勝手に決めない。」「物事を決めるときは、みんなの意見を聞く。」「みんなと仲良く遊ぶ。」「みんなの気持ちを考えて動く。」等々・・・、これらの考えに、少し補足を加えながら共有化を図りました。6年生の授業もそうでしたが、友達の意見を知ること、「同じだ。」「似ている。」あるいは、「自分と違う。」「そういう考えもあるんだ。」という様な気づきの機会になっていたらいいと考えます。今回のテーマである「差別をなくすためには・・・。」「みんなが仲良くするためには・・・。」正直、とても難しい問題です。だからこそ、これからも各学年・発達の段階に合わせて、繰り返し繰り返し考える場面や話し合うという実践が必要だと考えています。



12/4(月)に実施した「人権トーク&ライブ」の様子です。会場の気温は低めでしたが、心が温くなる時間と空間でした。

【地域のひと・こと・ものを学ぶ】

3年生の「小長井町の自慢をしよう!」の学習として、「田崎牧場見学」を実施しました。まず、牧場を営む田崎さんから、酪農に関する説明をお聞きしました。そのあと、子供たちからの質問にも一つずつお答えいただきました。座学の後は二班に分かれて、餌やりとバター作り体験をしました。子供たちは、学校や教科書では味わうことができないリアルな活動に、終始目を輝かせて取り組んでいました。特に印象的だったのは、目の前の大きな牛に、おっかなびっくりしながらも、「ほら、食べてえ。」と話し掛けながら、餌をあげている様子でした。何とも微笑ましい光景でした。今回の見学や体験活動は、田崎さんの酪農という仕事に対する情熱と育てている生き物に対する愛情の深さについてもふれられる貴重な機会でした。

今後も、地域の方々の御協力のもと「ふるさと小長井」のひと・こと・ものについて、興味関心を高め、郷土愛を育てていきたい思います。



田崎さんの説明に興味津々。メモとる鉛筆も走っていました。



牛乳を20分ほどシェイクするとおいしいバターの出来上がり。



最初は、怖がる子も居ましたが、次第に慣れ、何べも餌をあげていました。

【心と心をつなぐ井崎浮立】

10日(日)に小長井文化ホールにおいて、「地域で考える女(ひと)・男(ひと)フォーラム」が開催されました。このフォーラムで、山本心美さん・一心さん(姉弟)が、地域の皆さんと取り組んでいる「井崎浮立」を題材とした発表をしました。浮立の歴史や意味、師匠であるおじいさんやお母さんとの絆、地域の方々との交流、二人の浮立に対する想いなどについて、多くの参観者の前でしっかりと発信することができました。駆け付けられた関係者も多くいらしたとのこと・・・。きっと二人の姿からは、愛おしさに加え、誇らしさや頼もしさも感じられたのではないかと想像します。すごく素敵な発表でした。

